

## 令和4年度ごみ量について

◆表1◆

項目	令和4年度実績	令和3年度実績	増減	(前)一般廃棄物処理基本計画最R4年度目標※
人口(10/1基準)	238,713人	238,311人	402人	239,512人
総排出量	60,725トン	62,196トン	▲1,471トン	—
原単位	696.9g/人日	715.0g/人日	▲18.1g/人日	—
家庭系ごみ原単位	373.0g/人日	384.4g/人日	▲11.4g/人日	360g/人日
家庭系ごみ資源化率	38.7%	38.9%	▲0.3ポイント	41%
総資源化率	—	41.6%	▲41.6ポイント	43%
最終処分量	0	0	—	0

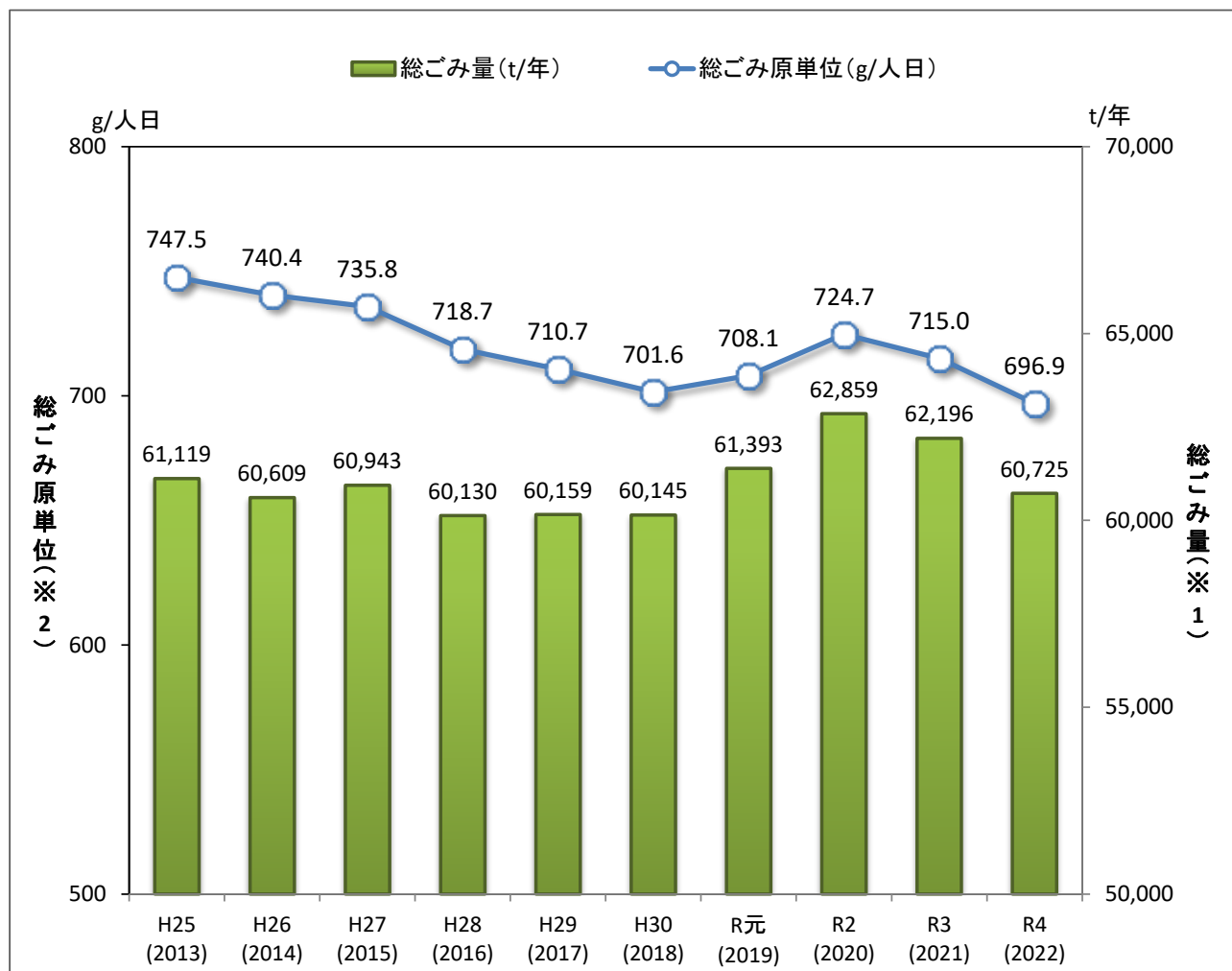
※令和4年度は、前一般廃棄物処理基本計画の最終年度にあたります。  
令和5年度以降は新たな基本計画の計画目標となります。

◆表2◆

\*単位：トン

項目		令和4年度実績	令和3年度実績	増減	増減率
可燃ごみ	家庭系	27,227	27,920	▲693	▲2.5%
	事業系	7,748	7,429	319	4.3%
	小計	34,974	35,349	▲374	▲1.1%
不燃ごみ等	不燃ごみ	3,101	3,365	▲264	▲7.8%
	有害ごみ	83	87.1	▲4	▲4.4%
	小計	3,184	3,452	▲268	▲7.8%
粗大ごみ	可燃性粗大	1,224	1,159.3	65	5.6%
	不燃性粗大	427	431.1	▲4	▲1.0%
	粗大資源	437	475.5	▲39	▲8.2%
	小計	2,087	2,066	22	1.0%
資源物	古紙類	8,650	8,869	▲219	▲2.5%
	古布類	1,176	1,293	▲117	▲9.1%
	びん	1,782	1,900	▲117	▲6.2%
	缶	601	639.6	▲39	▲6.1%
	牛乳パック	21	22.8	▲2	▲8.8%
	ペットボトル	1,002	1,012	▲10	▲1.0%
	容器包装プラスチック	4,045	4,223	▲178	▲4.2%
	小型家電	5	6	▲1	▲17.5%
小計	17,281	17,964	▲683	▲3.8%	
収集ごみ量	57,527	58,831	▲1,304	▲2.2%	
集団回収	3,198	3,365	▲167	▲5.0%	
合計(総ごみ量)	60,725	62,196	▲1,471	▲2.4%	

# 1 総ごみ量の推移



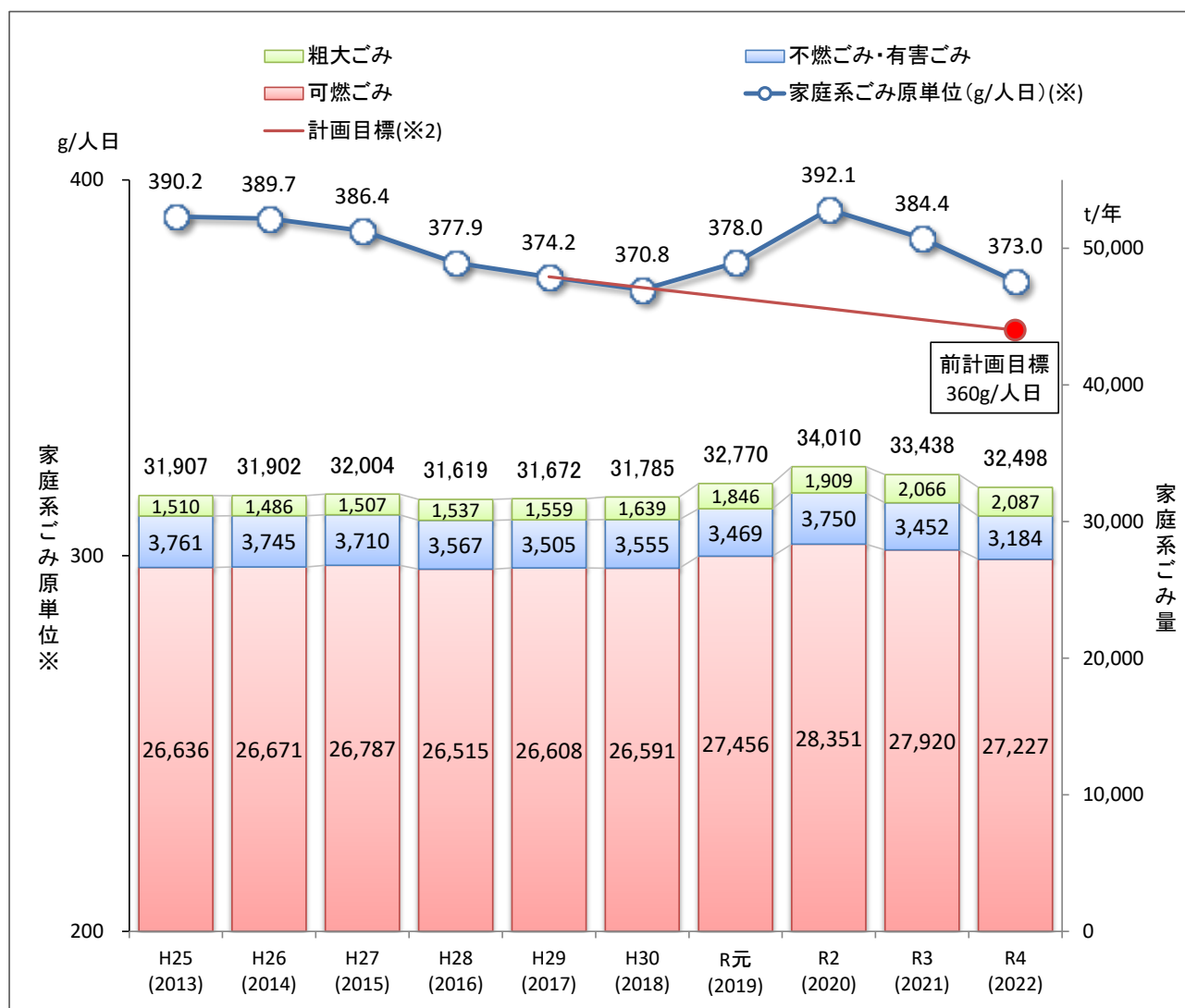
※1 総ごみ量：家庭系ごみ＋事業系可燃ごみ＋資源物（集団回収を含む）

※2 総ごみ原単位：総ごみ量÷人口÷年間日数

令和4年度のごみ総排出量は60,725トンと、前年度と比べて1,471トン（-2.4%）の減少となりました。総ごみ原単位も696.9g/人日と前年度比で18.1g/人日（-2.5%）の減少となっています。

いずれも新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度よりも低くなっており、コロナ禍の影響からは脱しつつあるものと考えられます。

# (1) 家庭系ごみ量の推移



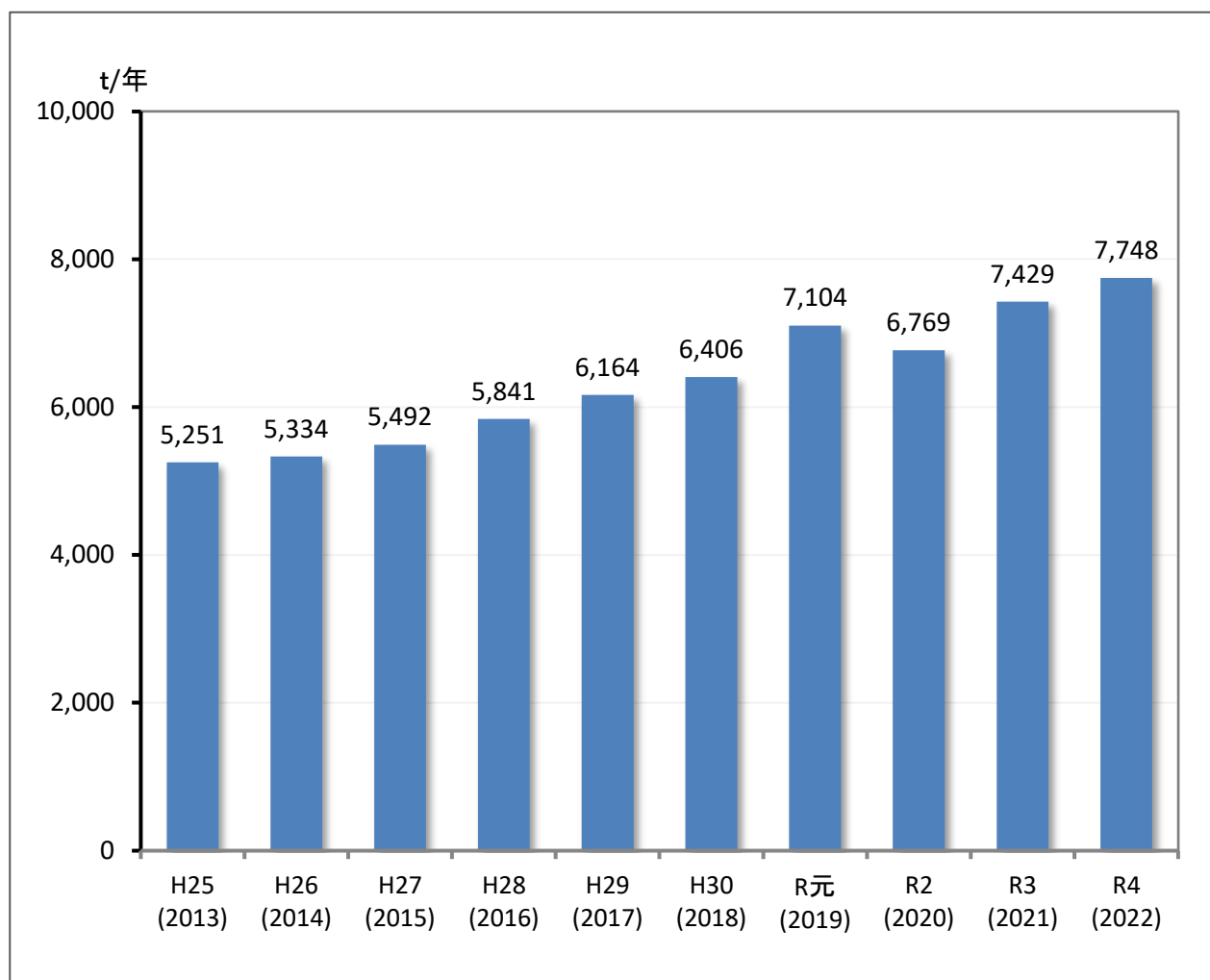
※ 1 家庭系ごみ原単位：家庭系ごみ（可燃,不燃,有害,粗大）÷人口÷年間日数  
 ※ 事業系可燃ごみや資源物は除きます

※ 2 前一般廃棄物処理基本計画の最終年度（R4 年度）の目標値です。

令和 4 年度の家庭系ごみ排出量は 32,498 トンで、前年度より 940 トン（-2.8%）の減少となりました。コロナ禍前の令和元年度排出量の 32,770 トンを下回っています。

家庭系ごみ原単位（市民 1 人 1 日当たりの排出量）は、3.0%減の 373.0g/人日でした。前一般廃棄物処理基本計画の令和 4 年度目標値 360g/人日を 13.0g/人日上回る結果となりました。

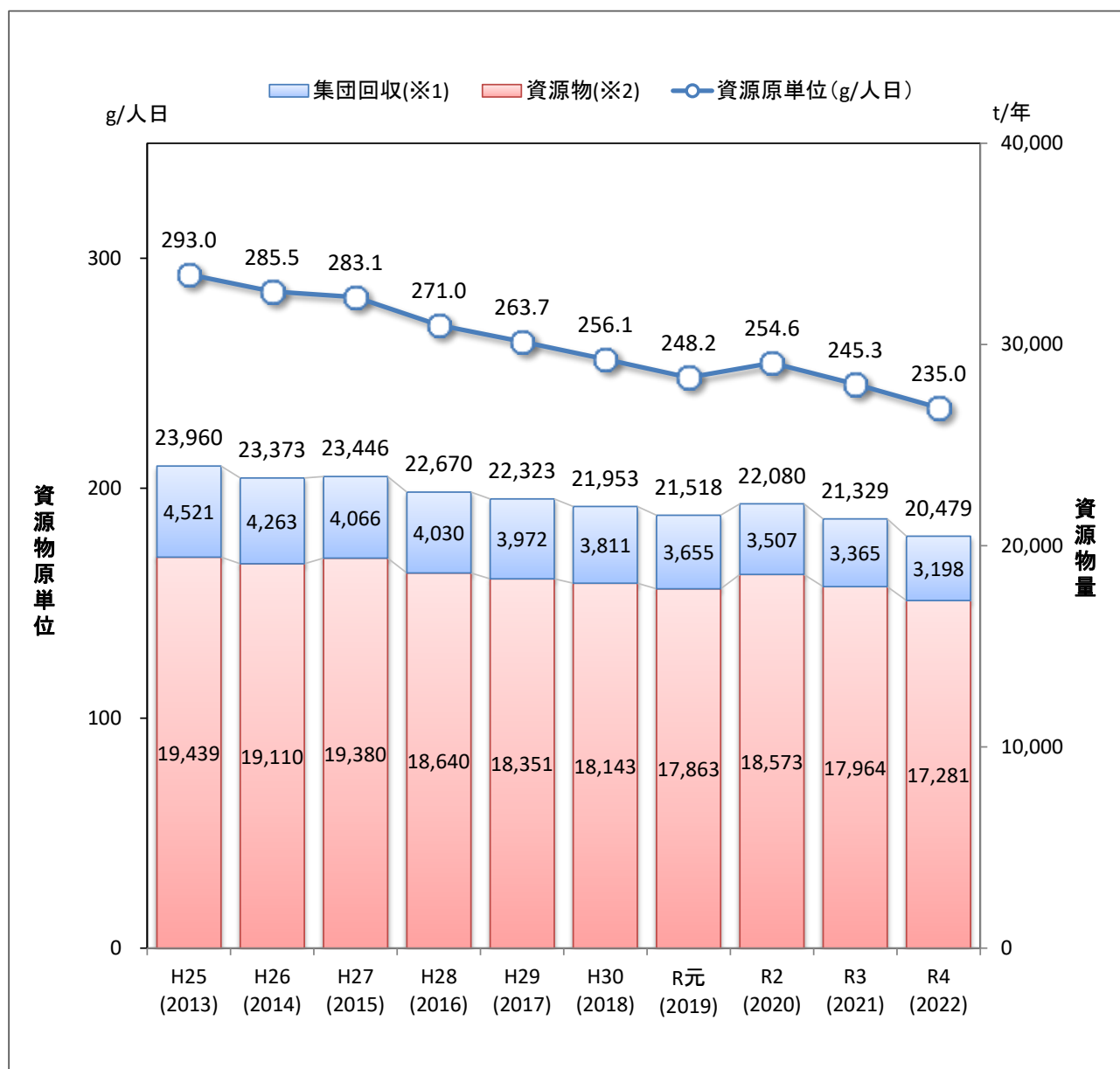
## (2) 事業系可燃ごみ量の推移



※事業系可燃ごみ量：清掃工場に持ち込まれた事業系の可燃ごみ量

令和4年度の事業系可燃ごみ量は7,748トンと、対前年度で319トン（4.3%）の増加となりました。令和2年度はコロナウィルス感染症拡大に伴う飲食店の営業自粛などで事業系可燃ごみ量は落ち込んでいましたが、令和3年度に引き続き増加傾向となっています。

### (3) 資源物・集団回収量の推移



※1 集団回収：子ども会や自治会など市民団体が回収した資源

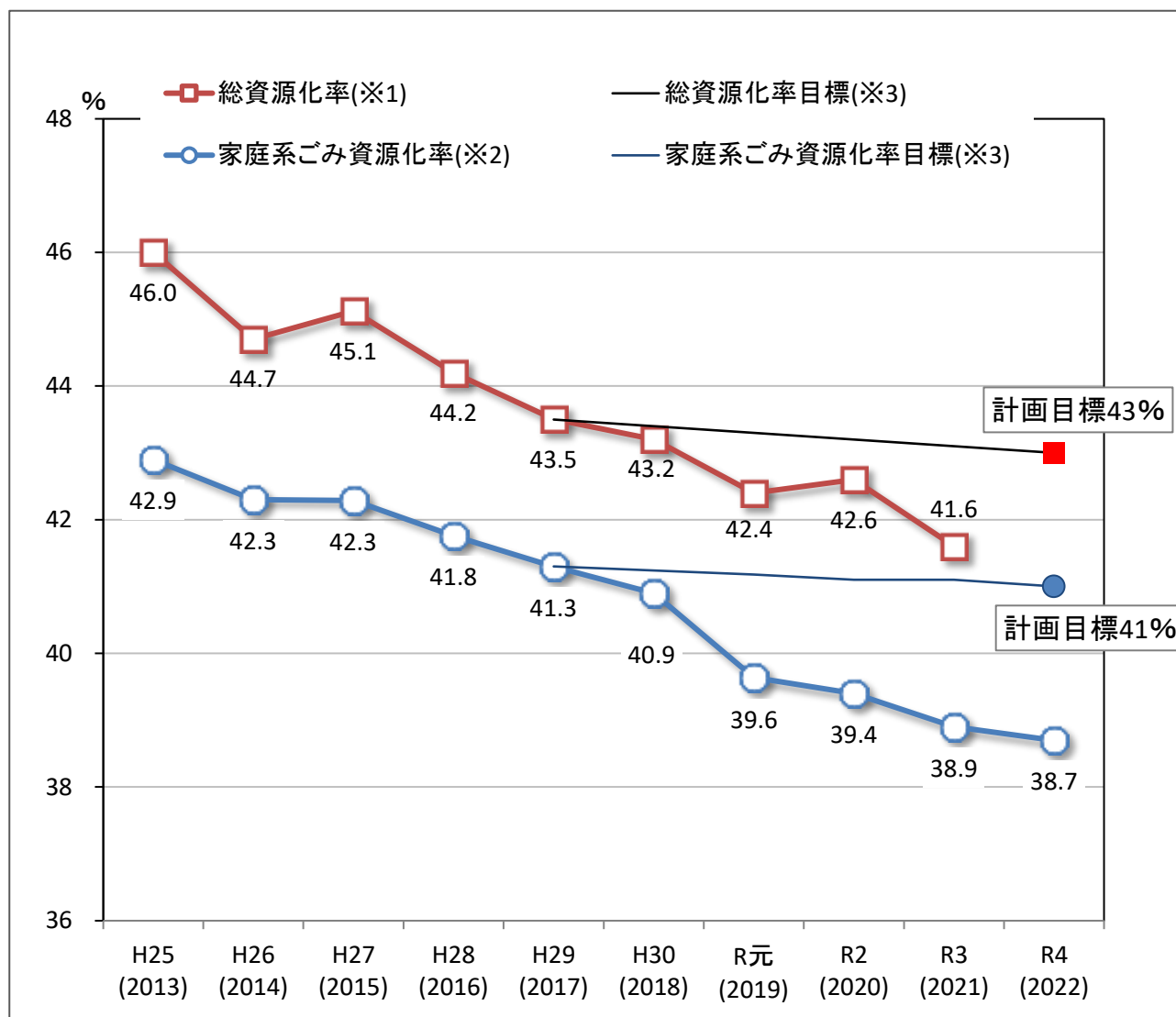
※2 資源物：行政が分別収集した資源

令和4年度の資源物・集団回収量は、前年度から850トン減（前年度比4.0%減）の20,479トンとなりました。原単位（1人1日あたりの量）も前年度比4.2%減の235.0g/人日となっています。

1ページの品目別の増加量を見ると、令和2年度に増加していた古布類、びん・缶類が令和3年度以降減少傾向に転じています。なお、古紙類は継続的に減少傾向にあります。

また、集団回収量は前年度より167トンの減少となっています。

## 2 資源化率の推移



※1 総資源化率＝（資源物収集量＋中間処理施設資源化量\*＋集団回収量）÷総ごみ量

\* 粗大ごみからの金属回収や焼却灰のエコセメント化を含む

※2 家庭系ごみ資源化率＝（資源物収集量＋集団回収量）÷（総ごみ量－事業系ごみ量）

\* 家庭から出る不用物の内、資源として分別された割合

※3 前一般廃棄物処理基本計画の最終年度（R4年度）の目標値です。

資源物・集団回収量が前年度に比べ減少し、家庭系ごみ量も減少したものの資源物ほどの減少幅では無かったため、家庭系ごみ資源化率は前年より0.2ポイント減の38.7%となりました。

※総資源化率は、確定次第掲載します。